

みどりの 通信



2023

2

NO.507

院内はたちの集い



1月11日、当院職員9名のはたちの集いを行いました。

病院長、総看護部長、事務長から祝辞を受け、「自分に関わってくれる方に感謝の気持ちを忘れず、先輩のように仕事をこなせるようになりたい」と決意を新たにしました。

【理 念】キリスト教精神に基づく「隣人愛」

【経営方針】この地域にしっかりと根ざし、住民に信頼される病院づくり

80th
SEIREI MIKATAHARA



社会福祉法人 聖隷福祉事業団
医療保護施設

総合病院 聖隷三方原病院

SEIREI MIKATAHARA GENERAL HOSPITAL

〒433-8558 浜松市北区三方原町 3453

TEL 053-436-1251 (代) FAX 053-438-2971

おしらせ



がん診療連携拠点病院 聖隷三方原病院 市民公開講座

日 時：2023年2月19日(日)14:00～15:30

開催方式：WEBライブ配信(Cisco社 WEBEXミーティング)

演 題 名：「緩和ケアと人生会議

～元気な時からできること～

講 師：聖隷三方原病院

緩和支援治療科 部長 森 雅紀 医師

参加費：無料

《ご視聴要方法》

本講座ご視聴希望の方は、2月16日(木)までに、当院ホームページ専用フォームより事前にお申し込みください。お手持ちのPC、タブレットなどからご視聴いただけます。お申込み後、視聴URLを事務局よりメールをお送り致します。

※ご視聴に関わるインターネット通信費用は受講者様の負担となります。

《お問合せ》総合病院 聖隷三方原病院 地域医療連携室

《電 話》053-439-0001



《当院HP》

<https://req.qubo.jp/mikatahara/form/shiminkouza>

がん、肝炎、糖尿病等の疾病により 長期にわたる治療が必要な求職者の皆様へ ～ハローワーク浜松による就職支援のご案内～

患者さんの悩み・不安にハローワーク浜松の就職支援ナビゲーターがアドバイスします！

日 時：2月15日(水) 10:00～12:00

場 所：聖隷三方原病院 よろず相談地域支援室

お問い合わせ：医療相談室

電 話：053-439-9046

※事前予約可能です。医療相談室にて予約ください。

あれ!? これって…
認知症?

認知症の人には
どう接したらいいの?

認知症相談会

認知症に関する相談を、認知症看護認定看護師、医療ソーシャルワーカーがお受けします。ひとりで悩まず、ご相談ください。

日 時：2月16日(木) 14:00～17:00

※事前予約制、30分程度／1件

場 所：聖隷三方原病院 よろず相談地域支援室

申し込み：医療相談室(よろず相談地域支援室内)

電 話：053-439-0006

受付時間：月～金 8:30～17:00

主 催：聖隷三方原病院 浜松市認知症疾患医療センター

人間ドックのご案内

聖隷予防検診センター

お申し込み：

【予約受付時間】

◆月～金曜日 9:00～16:30

◆土曜日 9:00～12:00

0120-938-375

がん相談支援センターからのお知らせ

おしゃべり会「じゃがいも」

同じ病気を抱えている患者さんといっしょにお話してみませんか？おしゃべり会はみなさんで体験をわかちあい、支えあう会です。

日時：2月16日(木) 13:30~14:30

場所：Web開催

内容：Web会議ツールを使用して、Web上でお話をいたします。詳しくは病院HPをご覧ください。

参加費：無料（Web通信に伴う費用につきましては、ご利用者様負担）

申込み：がん相談支援センター（053-439-9047）へお電話にてお申込みをお願いします。



最新情報はこちら→



お問い合わせ：よろず相談地域支援室内
がん相談支援センター
電話：053-439-9047

みどりちゃんのつぶやき

2月3日は節分です。今年の方角は「南南東のやや南」！恵方巻は、その年の「恵方」と呼ばれる方角を向いて、言葉を発さずに丸かじりするのがおきまりですね。願い事を思い浮かべながら食べるとよいといわれています。恵方巻の発祥ははっきりしていませんが、江戸時代の末期に大阪の船場ではじまったという説が有力のようですよ。おいしい恵方巻を食べて、四季の行事を楽しみましょう。

季節のレシピ

栄養課通信2月

～ れんこん ～

れんこんの旬は秋から冬になります。秋に採れるれんこんは水分も多くあっさりして薄切りにするとシャキシャキした食感になり、冬になると糖度が増し煮物にするとホクホクした食感になります。れんこんを常備菜にしている方も多いのではないのでしょうか？

浜松市でも、れんこんは生産されています。栄養価は、ビタミンC・カリウム・タンニン・食物繊維が豊富です。ビタミンCとタンニンは抗酸化作用があり、酸化や紫外線のダメージによるシミ・老化などを防ぎます。高血圧予防、便通改善も期待出来ます。

今回は「おすすめれんこんレシピ3選」を紹介します。（材料は全て2人前）

1.「シャキシャキ・れんこんのきんぴら」

れんこん……………150g
人参……………1/2本
ごま油……………適量
醤油・酒……………各大さじ1
顆粒だし……………小さじ1
みりん・砂糖……………各小さじ1
白ごま……………適量

- ① れんこんは皮をピーラーでむいて薄切りにし水にさらしてあく抜きをします。人参は3mmの細切りにします。
- ② フライパンを熱しごま油をひき、①を入れます。れんこんが透き通るまで炒め、醤油・酒・顆粒だし・みりん・砂糖を入れ中火で熱し、汁気がなくなったら白ごまをふり、器に盛ります。
※シャキシャキの食感が美味しいです。

2.「あっさり・れんこん鶏バーグ」

れんこん……………100g
鶏ひき肉……………200g
生姜(すりおろし)……………小さじ1
片栗粉……………大さじ1
塩……………少々
酒……………小さじ1+適量(蒸焼き用)
サラダ油……………適量

- ① れんこんを半分すりおろし、半分みじん切りにします。
- ② ①と鶏ひき肉と生姜、片栗粉・塩・酒を良く混ぜ合わせ6等分にし、小判型に形成します。
- ③ フライパンを熱しサラダ油をひき、②を中火で3分こんがり焼き、返してから適量の酒をふり、蓋をして火が通るまで蒸焼きにします。
- ④ 器に盛り、お好みで大根おろし・大葉の千切りを天盛りにして醤油をかけて頂きます。

3.「豚肉とれんこんとさつまいの甘辛煮」

れんこん・
さつまいも……………各100g
豚肉肩ロース……………100g
片栗粉……………大さじ2
サラダ油・揚げる用……………適量
酒……………大さじ2
醤油・みりん……………各大さじ1
砂糖……………小さじ1
※お好みで……………ごま 適量

- ① れんこんとさつまいもは乱切りにし水でさらしてからよく水気を拭き取ります。豚肉肩ロースは一口大に切ります。
- ② ボウルに全て入れて片栗粉を振り入れます。
- ③ フライパンにサラダ油をいれ170度に熱します。②を低温でじっくり揚げて油を切ります。
- ④ 別のフライパンに酒・醤油・みりん・砂糖を入れて中火で熱しひと煮立ちさせ③を入れとろみがついたら器に盛ります。
※ほくほくした食感と甘辛の味が良く合います。

栄養課 調理師：五明 律子 管理栄養士：川上 佐和子

今月の部門紹介

臨床研修センター

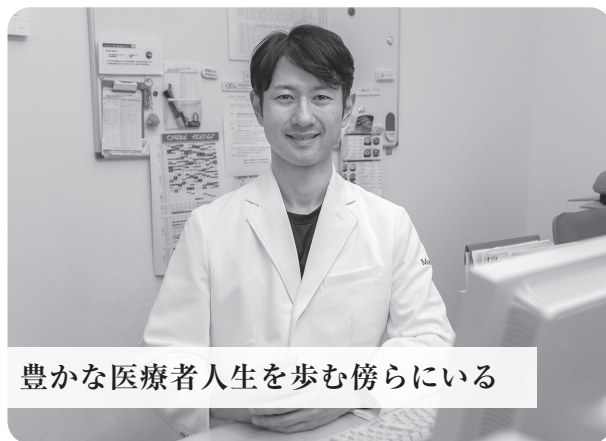


臨床研修センターは初期研修医をはじめとした、すべての医師がキャリアを形成することをサポートする部門です。臨床研修病院として長い歴史を持つ当院では、多くの診療に初期研修医が関わり、その成長の機会を見出しています。すべての研修医には上級医がともにいて、安全で質の高い診療を提供しています。

臨床研修センターは初期研修医にとって最も関わりが深く、その成長に大きな責任を持っている部門です。診療能力の修得を重視することはもちろんですが、職業人としてのコミュニケーション能力や、医師に求められるプロフェッショナルとしての態度を身につけることも当院での研修の課題としています。



臨床研修センター長 眞喜志 剛 まきし こう



豊かな医療者人生を歩む傍らにいる

市中病院でありながら大学病院に肩を並べるほどの診療科を有する当院には、エネルギーと熱意にあふれた研修医が全国から集まります。背景や文化も違うそれぞれの研修医の個性を大事にしながら、どこに行っても能力を発揮できるグローバル人材の育成を使命としています。

一方で頑張りすぎることによって消耗してしまわないようにする配慮も欠かしません。心身ともに満たされた状態で診療することで、提供できる医療の質は最大化されるという考えのもとに、研修医のキャリアとワーク・ライフ・バランスをサポートしています。



医師としての経験は若い研修医たちですが、その技能は高く、上級医を驚かせることもあるくらいです。また患者様への安全が最優先ですので、研修医の診療は上級医の指導のもとに行われています。

初期研修の2年間で健全で充実した期間にできるようにバックアップしています。その修了のために必要な要件を満たすサポートも当部門の使命です。そして次の世代に医療と文化を継承する場でもあります。臨床研修センターは、若い医師たちが豊かな医療者人生を歩む道の傍に存在する部門です。



病院で働く人たち

摂食・嚥下障害看護認定看護師



摂食・嚥下障害看護認定看護師は、病気や薬の影響で食事摂取に障害がある患者さんに対し、飲み込みの評価や、食事内容や食べ方、口腔ケアの方法などを支援しています。当院では3名が勤務



うちやま なお
内山 奈緒

しており、リハビリテーション科の医師や栄養士、言語聴覚士など、多職種と一緒に様々な視点からサポートを行っています。患者さんの「食べる」を支援し、入院生活だけでなく、退院後の生活でも安全に美味しく食事ができるよう心掛けています。

看護外来のご案内

看護外来では、患者さんやご家族がその人らしい生活をスムーズに送れるよう、専門的な知識、技術を持った看護師が相談をお受けしています。

看護外来は予約制です。

- ・ ストーマ外来
- ・ がん看護外来
- ・ 皮膚・排泄ケア外来
- ・ 助産師外来
- ・ フットケア外来
- ・ 母乳外来



お問い合わせ先

よろず相談地域支援室（看護相談室）

TEL:053-436-1251（代）